

(様式1)

※()は関連したアンケート項目に対する評価

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	・ 学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。	A	コロナ対応下で制限はあるが、可能な限り工夫して行事等の活動を実施していきたい。	A	A	保護者、生徒ともに満足している割合が90%を超えた。今後も充実した教育活動を学校全体で進めたい。	
		② 「総合的な学習の時間」(3年)や「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	・ 課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。	B	臨時休業による遅れもある中で、昨年度の指導実践を生かしながら、探究活動がより深く行われるよう指導法を充実させていきたい。	A	B	肯定的評価は保護者79%生徒75%職員95%、いずれも昨年度より上昇。今後も引き続き探究活動の指導法のスキルを上げるための研修を続けていきたい。	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	・ 年に2回(7月、10月)、外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲の向上を図る。	A	7月(1年)に行ったイノベータ講演会後のアンケートで、質問力の育成に効果的であったを回答した生徒は80%いた。	A	A	コロナ禍で、昨年と比べ回数・規模も縮小して行った。役立っていると答えた生徒は80%弱、保護者は80%であり、一定の評価は得られた。次年度もさらに質問力や探究活動の意欲向上に沿った講演会を企画していきたい。	
		④ Oxbridge研修やその報告会などのグローバル教育を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	・ Oxbridge研修参加者の体験をさまざまな機会に共有させるよう努める。国際交流や国内・校内等での研修参加を促すよう努める。	B	昨年度同様今年度のOxbridge研修は中止となった。国際交流に関する研修の機会を計画し、生徒向け案内の準備を行っている。生徒へのグローバル教育の流れが止まらないよう指導を行っていきたい。	B	B	今後も国内、県内等のできる範囲での研修会を企画、紹介していく必要がある。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導を行っていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 55分となった授業が工夫されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	・ ICTの活用やALの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。	A	臨時休業による授業の遅れも解消できるよう、より工夫・改善して授業を進めていく。	A	A	保護者、生徒ともに満足している割合が90%となっている。授業アンケートも参考にし、さらに授業改善を行いたい。	
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	・ クラス分けの方法や時期を工夫する。 ・ 小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。	A	少人数の授業のメリットをさらに生かせるように授業内容や指導方法を検討する。	A	B	85%程度で目標達成まであと一步。今年度はコロナ禍で指導が難しいところもあった。来年度に向けて検討したい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	・ 発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上をはかる。 ・ 生徒が発表する場面を意識的に増やす。	A	授業だけでなく、探究活動の場や行事などでも主体的に活動を進めさせる。	B	B	生徒の回答は68%。臨時休業で授業時間が大きく削られ、授業展開に影響があったと思われる。再度、生徒及び教員の意識を向上させたい。	
			② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。	・ 授業改善推進委員会を中心に計画を立て、学年及び教科で研究授業、授業研究を実施する。	-	臨時休業もあり実施はまだ行われていない。今後、各教科ごとに研究授業、および研修会を計画し、授業改善に向けた取組を行ってきたい。	A	-	今年度はスナップアップサポート事業が中止となり、組織立っての実施はできなかったが、管理職参観時には他の先生も授業見学を行ったりSS科目での授業公開を行い出来る範囲での授業改善を行った。次年度も引き続きSS科目やICT利用の授業などを中心に授業改善に取り組んでいきたい。
		③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	・ 「土曜AL」の取組を確実に実施し、生徒への効果的周知を図る。	B	生徒への「土曜AL」の趣旨の徹底と、主体的な学習に取り組むための意識付けを継続していく。	B	C	希望者対象の講座への参加生徒の満足度は高いが、参加しない生徒の自主的な学習の取組が低下している。特に1年生の主体的に取り組んでいるという評価が低い。教科や担任との連携を図りながら趣旨を理解させ、主体的な学習に向かわせる行動を促していきたい。	
			④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	・ AL型授業、外部英語検定(GTEC、英検等)受験、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。	A	AL型授業等の指導をさらに推進し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ってきたい。	B	B	3年57%(2年次60%)、2年71%(1年次66%)。1年68%の生徒が向上していると答えている。新規来日予定のALTと連携し、より高度なコミュニケーション活動を授業に取り入れていきたい。
	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	・ オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。	B	通常登校再開直後の6月に全学年で学習時間調査を実施。臨時休業の影響が心配されたが、例年をやや上回る結果が出た。	B	B	「(ある程度)確保できている」と答えた生徒は、1年生50%、2年生56%、3年生82%だった。早い時期での学習習慣の確立が必要である。	
			② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。	・ 学校に軸足を置いた学習が受験勉強の基本であることを理解させるための仕掛けを工夫する。 ・ 蛟龍館自習室の拡張を図った。	B	2学期より蛟龍館1階食堂を1・2年生の学習室として開放。2階ともども座席を間引いて配置。3密回避とのバランスが難しい。	B	B	1年64%(前年60%)、2年57%(前年61%)、3年76%(前年78%)と、半数以上の生徒が取り組んでいると回答した。さらに主体的な取組を促したい。
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導を行っていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っている。	・ 学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。	B	生徒指導部会議において、定例会議を持つことができないが、教育相談係との情報共有を行ったり、回覧を利用するなど情報共有を行った。	B	A	情報交換が行われているかについて、「そう思う」と回答した職員は45%→56%と昨年度から11%増加している。生徒理解を深め、教育相談係と学年の連携により早期の対応を行っていく。
			6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	・ 学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。	A	毎朝正門指導を行い、始業合図5分前登校を促し登校時指導を行うことができた。	A	B
		② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。		・ 学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。	A	定期戦に向け活動しやすくするため、活動後の授業時の服装において柔軟に対応するなど学年と特活部との連携を図ることができた。	A	B	学校行事等が自粛や縮小という中で行われたため、活気ある活動ができなかったが、やれることを模索し、行事に取り組むことができた。
		7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場する部活動5つ以上を目指す。	・ 文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。	A	臨時休業中に部活動紹介動画を作成し、オンラインで1年生に向けて配信した。学校再開後は迅速に部活動編成をすることができた。引き続き活発に活動できるよう援助していきたい。	B	B	後期は、関東大会が体育部4部、学芸部1部、全国大会が体育部1部、学芸部1部が出場した。実人数部活動加入率は91.9%であった。新年度の部活動紹介の実施方法を検討する。
② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じている生徒が90%以上である。				・ 練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れる。	B	感染防止対策などの安全面を考慮した活動計画を各部で生徒に考えさせる。	A	A	生徒アンケートでは90%、保護者アンケートでは92%の満足度であった。部活動計画の有効的活用を継続する。
③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が70%以上である。			・ 学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。	B	練習計画の振り返りから、各部での学習時間確保の工夫がなされているか確認する機会を作る。	B	B	生徒アンケートでは63%、保護者アンケートでは78%の満足度であった。本校部活動運営方針の理解と実施を促進させる。	
④ 定期戦及び優曇華をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。			・ 行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、達成感や存在感が感じられるようにする。	A	優曇華は実行委員会での話し合いの上中止となった。定期戦は感染防止対策を優先事項として実行委員中心で運営する。	A	A	生徒アンケートでは88%、保護者アンケートでは88%の満足度であった。コロナ禍の中の学校行事の在り方を検討する。	

(様式1)

※()は関連したアンケート項目に対する評価

No. 2

羅 針 盤	
評価対象	評価項目
	8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。
	9 読書指導が行われていますか。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。
	11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。
	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。
	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。
	15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。
	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。

方 策
・ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。
・人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。
・国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。
・進路指導部が年度当初に3年間を見据えた指導計画の大枠を提示する。
・これまでの指導のノウハウを継承しながら、さまざまな場面で資料を有効活用する。
・生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部・探究部と学年が連携して計画・立案し、実施する。
・生徒の実態に応じて作成する年間指導計画に基づいて実施する。
・前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。
・納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。
・学校行事等の記事など、新しい情報を頻繁に発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。
・行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発刊を行う。
・PTA・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。PTA新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。
・交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用した通学など、事故に遭いにくい通学を促す。
・交通安全教室の形態・指導内容等を高校生に合ったものになるように工夫する。
・毎月安全点検を実施し、施設的に問題の改善に努める。
・他分掌と連携し、水害時の緊急時使用マニュアルを作成する。
・年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた防災マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応をできるようにする。
・保健委員会活動(保健だより等)により、感染症・健康に関する情報を発信する。

第1回点検・評価			第2回点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
B	/	「スマホ利用ルール」についての活用を今後検討していく必要がある。	B	B	スマホ利用ルールの遵守に対する回答では、保護者と生徒の結果に相違が見られる。利用ルールの見直しを検討していく。
A	/	臨時休校中であってもいじめは起こりうるものとして、アンケート調査を実施した。今後も学年等情報共有を行い早期発見、早期対応を行う。	B	A	取組について生徒結果では、「あまりできていない」を含めて18%→13%と5%減少した。啓発活動を含め、生徒会本部役員と連携して行い、早期発見、早期対応を行っていく。
A	/	学校再開後、図書館オリエンテーションを実施できた。	B	B	企画展を積極的に開催したい。また新聞の過去記事検索や電子本導入など総合的な情報発信基地としてIT化を推進したい。
B	/	新型コロナウイルス感染拡大に伴う学校臨時休業で、LHRそのものの実回数減少している。今後、調整の必要あり。	A	A	保護者(86%)、生徒(90%)、職員(91%)ともに評価する声が大半を占めている。進路指導に関してLHRが有効に活用されている。
A	/	刊行物については予定どおり発行完了。特に「進学の手引」は、生徒の進路選択に大いに参考となるだろう。	A	A	ほとんどの生徒は「役に立つ」と回答している(96%)一方、(あまり)見ていない保護者が約3割(28%)いる。メールやWebを活用して周知したい。
B	/	インターンシップをはじめとした体験学習は新型コロナの影響でのきなみ中止。	A	A	キャリアメディカルでの講演会は医師を希望する生徒にとって良い刺激になっている。また、1年でのオンライン分野別研修の評価も高く、自分の進路等に関連した学びの機会を今後も継続していきたい。
A	/	夏期補習は、夏期休業短縮にともない、当初計画を大幅に縮小する形で実施。早朝補習は2学期から開始。	A	A	早朝・放課後の補習を評価する生徒が85%、長期休業中補習を評価する生徒が83%だった。また、オンライン講座を評価する声もあった。
-	/	参加生徒の満足度は例年極めて高い行事であるが、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた。	-	-	(新型コロナウイルスの影響で中止)
未	/	(新しい入試に向けて取り組んでいる。)	-	-	二者面談を中心としたいいいな個別指導が定着している。志望校検討会の運営も円滑になり、時間短縮につながった。
A	/	分掌内に更新担当者を配置し、行事ごとに更新を図っている。	B	B	「充実している」「概ね充実している」が合わせて87%であった。より見やすいものとなるよう改善していきたい。
A	/	各行事の中止により「前高通信」の発刊に苦労しているが、情報が集まり次第準備していきたい。	B	A	「満足している」「概ね満足している」が90%と目標を達成できているが、「前高通信」の発刊数は目標に届かなかったので発刊時期をあらかじめ決めるなど改善したい。
A	/	PTA新聞の作成会議ははできるだけオンラインで実施した。第2号の作成についても感染予防策を講じていて、発行できる予定である。	B	B	今年度のPTA活動は大幅な縮小を余儀なくされた。その中でも新聞は工夫しながら大変良いものができた。来年度は一般会員への情報発信をこころがけ、状況に合わせて活動していく。
A	/	臨時休校ため事故件数が例年と違った。新入生に対して、交通事故の被害者・加害者にならないよう想像力を高められるよう指導を行った。	B	B	臨時休校であったにもかかわらず、2学期末時点で昨年同数の19件の事故報告があった。ヘルメットの着用を推進し、規範意識の改善を行う。
B	/	警察との連携により、1学年で交通安全教室を実施し、遵法意識を高められるよう指導を行った。	B	B	臨時休校明け直後の交通安全教室により、効果が見られた。効果が見られると回答した生徒は93%であるが、事故報告によると「前方不注意」「スピード出し過ぎ」が多いため、継続して指導していく。
B	/	安全点検は計画通りに実施している。コロナによる休校により防災訓練が1回出来なかったが、次の防災訓練では、火災地震、水害についての避難にも触れ訓練を行い、様々な災害に対する防災意識を高めていきたい。	A	A	生徒・保護者による学校評価の目標値を達成できた。施設設備の点検を通して、生徒の学校生活における安全面への配慮もできていると考える。また、防災訓練は1回のみの実施となったが、地震と火災の両方の訓練を行うことができた。また、コロナウイルス感染防止対策に対する環境の整備もさらに深めていきたい。
A	/	保健だより等を利用し、コロナウイルス感染防止対策や熱中症やケガ予防について生徒に情報を発信しているが、継続して感染拡大防止に努めていく。	A	A	生徒の84%が、健康面で安心感があると回答している。保健だよりや登校時の玄関での呼びかけを実施し新型コロナウイルス感染防止の意識を高めているが、さらに感染防止の環境整備や意識を高めるよう努める。

・新型コロナウイルスに係る長期の臨時休業により十分な教育活動が行えなかったため、外部評価は行っていない。